



双子の赤字という現実

令和6年1月25日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

双子の赤字はレーガノミクス以前のアメリカと酷似する。しかし世界情勢の変化は新しいグローバル経済の現実とともに、複雑な考察を要求するものである。

ここで考察されることは、低金利政策と円安、海外との物価価格差などである。これらにおける国内資金の流出とともに、国内経済は輸出立国という過去の現実から、海外における現地生産などとともに、新しい産業の技術と資本のヒエラルキーなどにおける、大きな変換を現場において有する。

これらは経済のグローバル化は、世界経済の統一化を求め、これらは世界における標準化した購買マインドなどの育成を有するのである。

これらは世界における新たなメジャーなどの誕生が存在し、これら資本力や技術力は、遥かに大きな自己プレゼンスを有するのである。

これらグローバリゼーションと双子の赤字という現実、国内における経済政策を立脚を求められるものである。

また国内における財政赤字の償還など、大きな問題は山積するものである。

国内におけるグローバル企業は、世界基準における新たな企業経営への転換を実現しているのである。これらは先端産業が遥かに大きな自己の進歩と進化を有することに対して、国内企業においてもそれら自己基準を受け入れる必要性が存在し、それが唯一の市場への参加の条件であることは正しいのである。

これら自由経済という不確定性は、自己経済の安全保障という新たなトレンドとともに、世界経済がその自己の拡大を有するのである。これらは計画経済の育成と国家財政の健全化という選択を呈するものである。これらは新たな税制への転換とデジタルマネーシステムへの天下など将来における新たな現実とともに、国内経済のコントロールの回復は必要であると考える。